

雑司が谷旧宣教師館だより

第22号
2001年12月25日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎ F A X (03)3985-4081

特集：来館者の声

「岡野誠、戦地からの絵てがみ展」(10月2日～12月2日)、窪島誠一郎氏講演会「生と死の画家たち」(10月20日)、地域史講座「雑司ヶ谷学事始め」(12月2日、8日)、以上3つの事業をこの秋に行いました。

絵てがみ展は朝日新聞他に掲載されたこともあって約2,500人が見学に訪れました。窪島誠一郎さんの講演会、小森陽一東京大学教授の講演及び地域研究家多見貞子さんにご案内いただいた「雑司ヶ谷学事始め」は共に定員を上回る申し込みでした。

それぞれに見学・参加された人々から寄せられた感想は温かく心情が吐露されたもの、歴史を振り返り現在を再考しているものなど皆さんに是非読んで欲しいと思うものが殆どです。今回22号から数回、「見学者の声特集」で紹介します。

「岡野誠、戦地からの絵てがみ展」

岡野誠(1908～1939)：画家志望。二十歳で入隊。日中戦争従軍。除隊三ヵ月後目白駅で自殺。内地兵営、中国大陸より家族らに宛てた絵手紙・雑司が谷で描いたスケッチ等200点余り。2002年、絵てがみ展②開催予定。

【どんなにか大変だったことでしょう...】

◆10代・20代で戦わなくてはならない時代、その時代を生きの方々のご苦勞はどんなにか大変だったことでしょう。私の父も満州で戦いお腹に傷があり、空腹と、傷にうじがわいたと云っていました。戦争は二度と嫌ですね。岡野さんの心やさしい暖かい絵に感動しました。(日高市/R・Tさん)

◆戦地の生活が苦しいと書いていないところに悲しみを感ずります。ユーモラスな絵に思わず笑ってしまいましたが感動しました。(東池袋/60代/女性)

【同年兵に飯を食わせてやりたかった...】

◆戦死者より戦病死のほうが多いのは食べ物が足り

なかったからでした。同年兵に飯を十分食わせてやりたかった。(大正13年生。N. Sさん)

【戦争は厭です...】

◆しばし東京に居ることを忘れてしまうような空間です。このような場所での絵手紙展はとても良い企画だと思います。人混みの中で見たら心休まらないでしょう。つくづく戦争は厭です。どんな形であれ無意味です。(練馬区/40代/女性/朝日新聞)

◆新聞を見てきました。兄達も戦争で死んだり病気がたりで今は私一人になりました。岡野様の哀しさが優しさが胸に入りきます。もう戦争は厭です。素晴らしい物を残して下さい有り難うございます。

◆戦争はもうしないでください。ユーモアの中にさびしさを感じました。(板橋区/60代/女性)



今日のはべらぼうに
美しい空の色：
なまじ個性だの主
観なんてネエほう
がねえ!!のかも知
れはがき文より)

(岡野誠画)

【戦争は人間性を歪める...】

◆私は81歳。5年4ヵ月の兵役で「インパール」作戦に一兵士として従軍、万死に一生を得て帰還したものです。今回の岡野誠さんの絵を見て感無量なものがあります。戦争というものがいかに人間性を歪めるものかということに改めて思っています。

(北区/80代/男性/朝日新聞を見て)

◆まさにユーモアがあった。しかし当時の時代背景また度重なる招集そして自殺という岡野誠さんの生涯を思うとき、このユーモアがかえってメッセージ性を強くしていると思えた。戦争は人間性を抑えつけるものだし、一人一人の自由な発想・才能も殺し

てしまうものだと思う。そんなことに対して岡野さんの絵からは、何かものがくような葛藤が感じられる気もした。(練馬区/20代/女性/ここに来て)

【戦争が奪うもの...】

◆人間の暮しも命も奪ってしまう戦争の残酷さを感じました。(巣鴨/50代/女性/朝日新聞で)

◆戦争が奪っていった「才能という名の逸材」がこんなにも輝かしいものだったという事に言い知れぬものを感じました。当時にタイムスリップしたような生き生きした思いやりに引き付けられる思いがします。(さいたま市/20代/男性/ここへ来て)

【平和の大切さをかみしめて...】

◆岡野さんの絵手紙には心を打たれ、平和の大切さを改めてかみしめました。窪島さんの無言館にこの絵手紙を常設展示できないものでしょうか。ご検討ください。(長野市/60代/男性/朝日新聞で)

◆朝日新聞で紹介されているのを見て、足を運びました。極限状態の日々の中で、こんなにも人間らしい暖かい心を持った人がいたことをとても頼もしく思います。そして今は恵まれている時代なのに、こうも悲しいニュースの多いことがイヤになります。来て良かったと思います。(練馬区/女性/朝日)

◆繊細な中に明るさのある絵手紙で、平和について考えさせられるいい機会となりました。きっと戦争に突き進む日本に失望され、命を絶たれたのでしょうか。(60代/男性/第2の人生進行中/朝日新聞)

【歴史の証人...】

◆戦地からの絵手紙は、まさしく歴史の証人の役割を果たしていると思いました。戦地に厳しさを必死で(ユーモアをもって絵手紙を書くことによって)耐えておられたのではないかと察せられました。おしい芸術家を早く失わせてしまったと思います。

(練馬区/50代/女性/朝日新聞を見て)

【懐かしく拝見しました...】



大田区立図書館蔵 岡野誠画

(岡野誠画)

◆懐かしく拝見しました。小学校時代がよみがえります。当時は少年雑誌も展示のハガキ絵そっくりのものであふれていました。また見せてください。

(大田区/70代/男性/朝日新聞をみて)

◆小生も昭和16年の徴収兵で、北支(現中国)に足掛け5年居りました。軍事郵便が懐かしく思い出されました。検閲が厳しく、思うように便りができませんでした。この筆者岡野さんがこの通りに内地の人に便りが出来たとしたら羨ましいです。次回は有料で結構ですから絵手紙の頒布を切望します。T記

◆戦地からの便りは懐かしくもあり、又悲しい思い出を呼び戻すことでもあります。安らかに。

(台東区/70代/女性/朝日新聞で)

◆子供の頃、満州の兵役の父からもらった手紙のことを思い出しておりました。(世田谷/60代/男)



【心の豊かさがあった...】

◆実に生き活きとした生活感のある様子が微笑ましかった。何か近代が利便性と引き換えに失ってきた心の豊かさがこの時まではあったのだと感じ入りました。(50代/landscape designer)

【新聞で知り、とんできました...】

◆テロと報復、戦争という言葉が飛び交う今日この頃。ちょうど新聞でこの展示のことを知り、とんできました。このような場所に素敵な洋風建築が残されていたことも知りませんでした。建物の規模に相応しい企画展は胸を打ちました。才能溢れる若者が踏みにじられる時代がふたたび来ないことを祈ります。(練馬区/50代/男性/朝日新聞で)

【以前にも...】

◆岡野さんの絵は以前も時に拝見していました。豊島区郷土資料館で。絵も繊細ですが、文字も綺麗です。同じような企画で『高山良策展』が頭の中につきまといました。(練馬美術館、銀座画廊等。アトリエ村出身)(千早/70代/男性/社教・図書館)

【学童疎開の写真も...】

◆小生昭和7年生まれ、終戦は旧制中学1年です。少女4点の絵、1934~1937年迄の絵は何みても素晴らしく懐かしく思い出され感動致しました。学童疎開等の写真も大変懐かしく拝見致しました。A. S

※1987年特別展図録『さよなら帝都勝つ日まで』
-豊島の学童疎開-、1988年特別展図録『子どもたちの出征い』
-豊島の学童疎開・2-(豊島区郷土資料館編集発行)に掲載

編集後記：次回の案内が欲しいという要望多数有り。期待にそうべく方法を検討中ですが、良案があったらご一報ください。 文責 浜地